

平成26年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成27年4月4日

研究・研修課題名	専門作業療法士取得のための研修補助 認定作業療法士取得のための研修補助
研究・研修組織名（所属）	リハビリテーション部 （所属：リハビリテーション部 総括責任者 馬庭 壯吉）
研究・研修責任者名（所属）	森脇 繁登 （所属：リハビリテーション部 作業療法士）
共同研究・研修者名（所属）	竹内 雪絵 （所属：リハビリテーション部 作業療法士）

目的及び方法、成果の内容

①目 的

日本作業療法士協会は、臨床現場での実践の質の向上を目的とした「認定作業療法士」および「専門作業療法士」の資格取得を推奨している。本資格取得には、定められた研修の履修や必要な単位等を取得する必要がある。当院のような急性期病院では、作業療法を実施する上で、前述した資格を取得し、急性期において活かしていくことは、実践の質の向上のためにも不可欠なものである。

本研修費の最終的な目標は「専門作業療法士」の取得を目指すことであるが、協会の規定から、まずは「認定作業療法士」を取得することが必要である。当院はすでに作業療法士1名が「認定作業療法士」の取得に至っている。そこで本研修は、認定取得者は専門作業療法士の取得を、そして認定未取得者は認定作業療法士取得に向けて、定められた研修の履修および必要ポイントの取得を目的とする。

②方 法

附属病院リハビリテーション部所属の作業療法士が所定の講習会および学会に参加し、必要なポイントを取得する。以下に認定作業療法士、専門作業療法士の概略を示す。

～認定作業療法士の取得要件～

- 共通研修（必須）：「教育法」「研究法」「管理運営」
- 選択研修：「身体障害領域」「精神障害領域」「発達障害領域」「老年期障害領域」
（2 講座以上の受講が必須）

■ポイント数：50 ポイントを取得

■症例報告：事例報告登録制度に 3 事例の登録

～専門作業療法士取得要件～

- 認定作業療法士の取得
- 研修実践 20 単位
- 臨床実践 20 単位
- 研究実践 10 単位
- 教育と社会貢献の実践 10 単位

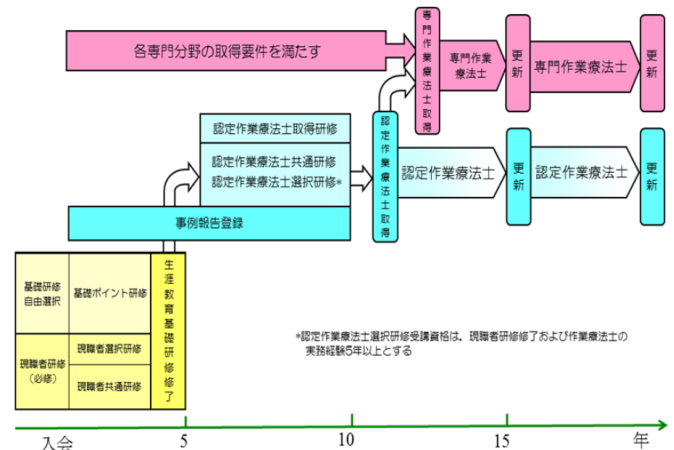


図 生涯教育制度改定2013:構造図

③成 果

(成果) 森脇繁登	8月9日	12月6日	専門作業療法応用VI
	8月10日	12月7日	専門作業療法応用VII
		11月23日	国際交流セミナー
竹内雪絵	9月27-28日		終末期・緩和ケア作業療法研究会第5回年次研修会

(成果詳細)

平成26年8月9-10日および12月6-7日に開催された専門作業療法士応用研修に当院認定作業療法士1名が参加した。本研修は、原則2日間の参加により履修となる。本年度参加した研修テーマは「家族支援」と「住環境」であった。1回目は8月9-10日に石川県立リハビリテーションセンターで開催され、実践的な内容を中心とした講義であった。そして、2回目は12月6-7日に金沢福祉用具情報プラザ（ルキーナ金沢）にて開催され、同様のテーマに基づいて各参加者が事例を持ち寄り事例検討会が行われた。少人数の研修会であったため、一人あたりの時間を十分に設けて頂き、国内各地で活躍されている先生方より、多角的な視点での意見を聞く事ができた。専門作業療法士の研修会は、2日間の開催で2日目は事例検討会が必ず開かれる。過去にも異なったテーマで同様の研修会に参加しているが、2日目の事例検討は毎回有意義な時間であり、即臨床に活かす事が出来る知見を毎回取り入れることができる。今回も行政の施策の活かし方、疾患に応じた福祉機器の導入や工夫点など、新たな視点を数多く学ぶことができた。急性期における作業療法の展開として、今回の研修会を活かしつつ、当院なりの工夫を模索しながら、患者サービスの向上に向けて引き続き臨床に励んでいきたい。なお、研修会に参加により専門作業療法士応用VIVIIを修了し、8ポイントを取得した。

平成26年11月23日に東京で開催された国際交流セミナーに参加した。これは、作業療法における国際的視野を学ぶもので、多方面で活躍している作業療法士の話を生で聞く貴重な機会であった。発展途上国を中心とした海外での作業療法は、国内とは異なる視点で展開する必要があり、とても新鮮な内容であった。また、他分野の作業療法士と交流することもでき、臨床だけでなく今後の研究活動においても貴重な繋がりを築くことができた。本セミナーに参加し、生涯教育ポイント2ポイントを取得することができた。

平成26年9月27日～28日、北海道札幌市 北海道道民活動センター（かでの2.7）において開催された、終末期・緩和ケア作業療法研究会第5回年次研修会に参加した。今回の研修会は、『原点復帰～がん・終末期の臨床に生きる作業療法の専門性を探る～』をテーマとし、日本のみでなく世界から考える終末期リハビリテーションの在り方を広い視点から学び、さらに我々作業療法士の現状と課題を再認識する機会を得ることができた。また、がん患者・終末期患者の安全な離床や役立つ知識の講義では、身体機能のみでなく、血液・生化学データ、骨転移等の画像所見などを確認しながら対象者の全体像を統合し、さらに病期やニーズ、社会的背景などを考慮した介入戦略を考える実践・応用力を講義およびグループワークを通して学習することができた。近年、術前・術後回復期～終末期まで、病期に関わらずがん患者に対するリハビリテーションの需要が高まっており、当院においてもリハビリテーション依頼が増加している。がん患者に対するリハビリテーションを実施するにあたり、身体機能や基本動作能力のみに重点を置いた介入ではなく、病期や全身状態のできるだけ詳細な把握と、ご本人・ご家族のニーズを踏まえた上で優先順位をつけたアプローチをしていく必要がある。今回の研修では、他覚的な視点における知識・技術、実践・応用力、さらには臨床倫理の視点まで、幅広く学習することができ、非常に有意義な時間となった。今回の研修で得た知識・技術・視点を、日々の臨床実践に生かしていき、質の高いリハビリテーションの提供につなげたい。なお、本研修の参加により生涯教育ポイント4ポイント取得した。